



国土交通省 北陸地方整備局

神通川水系砂防事務所

記者発表日時

平成29年5月26日

配布をもって解禁

「高山市立栃尾小学校」が土砂災害防止功労者表彰 (国土交通大臣表彰) を受賞

国土交通省では、毎年6月の土砂災害防止月間にあわせて土砂災害防止に関して顕著な功績のあった個人及び団体に対して国土交通大臣表彰を実施しています。

今年度は、全国で個人2名、8団体が表彰され、北陸地方整備局管内からは唯一、当事務所管内から「高山市立栃尾小学校」が受賞されます。

なお、表彰状伝達式は、平成29年6月1日(木)愛知県豊田市で開催されます「第35回土砂災害防止(全国の集い)」で行われます。

詳細は別添のとおりです。なお、不明な点や写真データにつきましては、下記までお問い合わせ願います。

資料配付先
高山記者クラブ 建通新聞社

○問い合わせ先

北陸地方整備局 神通川水系砂防事務所

TEL 0578-82-1220 (代表)

副所長(技術) 吉村 明 (よしむら あきら) (内線 204)

調査課長 中山 真二 (なかやま しんじ) (内線 351)

〒506-1121 岐阜県飛騨市神岡町殿 1020-4

<http://www.hrr.mlit.go.jp/jintsu/>



土砂災害防止功労者とは

目的：土砂災害防止に関して顕著な功労があり、他の模範となる個人または団体を表彰し、もって土砂災害防止に寄与することを目的とする。

表彰権者：国土交通大臣

高山市立栢尾小学校が表彰を受けた基準

表彰基準：土砂災害防止フェア、シンポジウム、講演会等をおおむね10年以上にわたり開催し、又は土砂災害に関する記録映画の制作、出版等を行い、国民の土砂災害防止思想の普及に顕著な成果又は功績があったこと。

* 他の表彰基準

- ・土砂災害の発生に際し、地域住民の生命又は身体の保護に顕著な成果をあげたこと
- ・土砂災害による二次災害防止に関する協力又は被災地域の情報提供、社会秩序の保全等の被災者支援活動に顕著な成果をあげたこと
- ・土砂災害に対する警戒避難体制の整備又は土砂災害防止対策事業の推進におおむね10年以上にわたり努め、顕著な成績又は功績があったこと
- ・砂防設備、地すべり防止施設等の土砂災害防止施設における美化、清掃等をおおむね5年以上にわたり行い、施設の維持管理に顕著な功績があったこと
- ・土砂災害防止施設、溪流、斜面等の点検、監視等をおおむね5年以上にわたり行い、土砂災害防止に顕著な功績があったこと

高山市立栃尾小学校の表彰趣旨

平成9年(1997)に旧上宝村（現高山市）が「砂防学習村」宣言をして以降、地元栃尾小学校では、毎年、4年生児童を中心に、地元で発生した土砂災害の記憶を風化させないための被災者等の体験談や学識者等による防災講演を『聞き』、砂防資料館（奥飛騨さぼう塾）や砂防施設見学を巡って、土砂災害の恐ろしさや、防災・砂防施設の必要性、効果等を『学び』、学校内や一般を対象とした砂防講演会などで学んだことを発表（『伝える』）するなど、砂防・防災学習を通して土砂災害防止思想の普及・啓発活動を継続的に実施し、土砂災害に対する地域の防災力強化と担い手の育成に努めています。

当団体は、平成9年以降、20年間にわたり、防災教育を継続し実施してきており、これまで砂防学習を受けた児童数は、平成9年以降の卒業生277名、在校生(4～6年生) 32名を合わせ309名を数えます。

当団体の長年にわたる諸活動は、住民の土砂災害防止思想の普及に貢献されました。

第35回土砂災害防止「全国の集い」

◆日時 平成29年6月1日（木）13:00～17:00

◆会場 愛知県豊田市民文化会館（大ホール）

◆プログラム

・開会式典（国土交通大臣挨拶 他）

・土砂災害防止功労者表彰式

・特別講演

「猿投窯から瀬戸窯へ」

講演者 柴垣 勇夫

（元愛知淑徳大学教授、静岡大学名誉教授）

・話題提供

「中部経済圏の基盤づくりに貢献、愛知の砂防」

講演者 松武 義聰（豊田市矢作川研究所常任顧問、元愛知県砂防ボランティア協会会長）

・パネルディスカッション

見つめよう！ 伝えよう！ 砂防の歴史

～こっぴり愛知で考える 明日への土砂災害対策～

コーディネーター 松本 浩司（NHK解説員）

パネリスト 大内 茂樹（豊田市平畑町在住、昭和47年7月豪雨災害経験者）

大洞 和彦（トヨタ自動車株式会社 社会貢献推進部
コミュニティレーション室 技範 担当部長）

阪本真由美（兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授）

田中 隆文（名古屋大学大学院 生命農学研究科 准教授）

丹羽 康博（愛知県 砂防課長）

コメンテーター 西山 幸治（国土交通省 砂防部長）



高山市立栃尾小学校の組織概要

団体名：高山市立栃尾小学校（たかやましりつとちおしょうがっこう）

代表：小谷 好廣（こだに よしひろ）校長

沿革：明治6（1873）年11月1日、田頃家学校として開校、現在に至る。

生徒数64名（平成28年11月30日 現在）

住所：岐阜県高山市奥飛騨温泉郷栃尾350

砂防学習を受けた生徒数（平成28年11月30日 現在）：

卒業生 277名（平成9年以降）

在校生 32名（4～6年生） 合計 309名

活動内容：

- ①『聞く』 ・土砂災害体験者の話を聞く、砂防講演会による防災学習 等
- ②『学ぶ』 ・水生生物による水質調査、奥飛騨さぼう塾（砂防資料館）等での土砂災害の学習、焼岳登山を通して活火山を学習 等
- ③『伝える』 ・定期的な学習発表会の開催（学校内） 等
- ④『防災力強化プロジェクト』（H28年度～） ・京都大学防災研究所と共同で雨量観測 等

【聞く】 体験談や防災に関する講義を聴く



▲地元の人からS54洞谷災害の被災体験について
講義を受ける児童(栃尾小学校)



(独)防災技術研究所の納口研究員から分かりやすい
防災学習を受ける児童(栃尾小学校)

【学ぶ】 砂防や火山について体験しながら学習

▼土石流模型実験装置で砂防施設の機能を学習

▼中ノ湯(長野県側)水蒸気噴火の現地見学



▼奥飛騨さぼう塾(砂防資料館)で学習



▲実際の砂防堰堤を見学

▲水生生物調査を通して溪流を学習



▲2003火山砂防フォーラム(H15)で活火山「焼岳」について学んだことを発表

▼H26砂防講演会で、学習した内容を発表



文部科学省で進めている、「学校施設の防災力強化プロジェクト(平成28年度)」の委託先に京都大学防災研究所が選定され、栃尾小学校と共同でプロジェクトを実施。

共同プロジェクトの役割分担

▲京都大学防災科学研究所が担当

- ・雨量観測
- ・小学校背面の危険斜面での斜面土層水分状態の計測
- ・データ解析及び斜面危険度評価

▲▼共同で講習会を実施

- ・連続計測で得られる雨量－土層水分状態の関連や斜面危険度の変化について報告

▼栃尾小学校が担当

- ・雨量データ表示及びその雨量表示を用いて、児童に降雨量の重要性を理解させる防災教育

